



社長発言が示す歪んだ経営姿勢

BREAKING
NEWS

私どもの経営姿勢を問われる筋合いはない

大手経済誌より「JR 東日本が重視するステークホルダーを問いかける」記事が配信されました。記事では、来年3月に予定されている運賃値上げについて、2月27日に国土交通省の運輸審議会で開かれた「公聴会」に参加した社員が「事前に社員へ説明がなかったのは不誠実」と意見したことに對し、社長は次のように回答したそうです。

今回の申請内容に関する情報は法令上、弊社の経営に関する重要事実^{重要事実}に該当し、社内外に対して厳格な情報管理を求められているものであることから、当然ながら、事前に社員にその内容を周知することができる性質のものではありません。私どもの経営姿勢を問われる筋合いではありません。(国土交通省公表・公聴会概要 PDF より)



※ イラストは、全てイメージです。

社会から経営姿勢を問う場である「公聴会」で「経営姿勢を問われる筋合いはない」という発言からは「社員を経営の当事者として見なさない姿勢」が表れる一方で「経営のパートナー」とする社友会（会員）には、意見交換や説明会で丁寧に対応する姿勢を示しています。

つまり、社員一人が真剣に経営姿勢を問うと突き放し、協調的な団体には丁寧に応じる姿勢は「経営が耳を傾ける相手を選んでいる」ことを象徴しています。経営にとっての「パートナー」とは「イエス」だけと言う存在なのでしょうか。都合のよい相手にだけパートナーシップを語ることは、対等ではなく上からの支配構造に近いものです。

公共性の高い企業として、社員・顧客・地域の声に真摯^{まじし}に応える姿勢が求められる中、公聴会での発言は偏った経営姿勢を象徴しており、今日の歪^{いびつ}な企業経営の根幹にあると言えます。

すべてのステークホルダーを軽視しない経営こそが、信頼を築く唯一の道だ！